

企画展「古代へのとびら2018」 ～『食』から学ぶ考古学～

とっておき埋文講座①

はじめに

今年の春の企画展「古代へのとびら2018～『食』から学ぶ考古学～」では、初めて歴史を学習する子どもたちが興味をもって楽しく歴史に親しんでもらう展示というコンセプトで企画しました。

企画するにあたって、ポイントの一つは、「教科書で学ぶ歴史の学習を補助する内容であること」です。今回の展示では、旧石器時代から近代までを時代を追って展示しています。当時の人々の生活の様子がイメージできるように、時代ごとのイラストのパネルも掲示しました。



『食』に注目できるように、今、使われている調理器具や食器を見て、それら



と同じ使われ方をしていた土器を見つけるコーナーを展示の最後に設置しました。順番に見てきた土器が形を変えて現代の『食』につながっていることが実感できると思います。

チラシの裏面には、クイズが出題さ

れています。それぞれの時代に4択クイズのパネルがあり、順に解いていきます。4択クイズの答えとなぞの石版のひらがなを組み合わせることでキーワードにたどり着けます。さらに、クイズコーナーには、上級クイズ、超難問クイズが出題されています。上級クイズは会期中、3問出題されます。見事3問全て解くことができると、ポストカードセットがもらえます。超難問クイズに正解された方は、お名前をクイズコーナーに展示させていただきます。チラシの裏面のクイズだけでなく、上級クイズ、超難問クイズにもどんどん挑戦してみてくださいね。





では、今回の展示品を紹介していきます。

旧石器時代

南砺市立美遺跡の富山県指定有形文化財の石器を展示しています。この石器は黒曜石で作られています。使われている黒曜石は青森県でとれたものと分かっています。この黒曜石がどのように青森県から富山県へ運ばれてきたのかはまだ、解明されていません。しかし、旧石器時代にはもう自分たちの集落以外との交流があったことが分かります。

縄文時代

富山市平岡遺跡、黒部市涌山寺蔵遺跡、高岡市井口本江遺跡の3遺跡の出土品を展示しています。3遺跡の土器を見比べると、縄文土器と一言で言っても時期によって、大きさ、形、模様がいろいろ違っていることが分かります。井口本江遺跡の出土品の土器は形や模様が美しく、一見の価値あります。

弥生時代

高岡市下老子笹川遺跡の出土品を展示しています。弥生時代も縄文時代と同様に時期によって土器の形状が変わってきます。今回は同じ遺跡からの出土品でも時期によって形が変わっていることを実際に見比べてもらうことができます。米作りに関係するもので教科書や資料集で目にする石包丁だけでなく、めずらしい大型の石包丁も展示してあります。また、弥生時代の高度な技術を紹介するために、勾玉や管玉を展示しました。

古墳時代

氷見市中谷内遺跡、小矢部市五社遺跡の出土品を展示しています。五社遺跡は県内最古の竈を備えた竪穴住居が発見された遺跡として、中谷内遺跡は珍しい移動式の竈が発見された遺跡として取り上げました。ミニチュア土器は、おままごとセットのように見えますが、お祭りのときに祈りを捧げるときに使われたと考えられています。よく見ると当時の人の指の跡が分かるものもあります。



近代

富山市平榎亀田遺跡から、ガラス瓶を展示しました。ガラス瓶は当時、目



薬など液体の薬を入れて使っていたものです。瓶の表面をよく見ると、「〇〇医院」という病院の名前が見えます。病院の名前から現在ある病院を探してみることもできそうですね。

おわりに

展示を始めてから、多くの子どもたちが来館しています。また、子どもたちとともに、初めて当センターに足を運ばれる保護者の方もいらっしゃいます。富山県内に数多くの遺跡や出土品があることを知っていただくことはとてもうれしいことです。

展示をきっかけとして、とやまの歴史をより身近に感じていただくことができれば幸いです。ぜひ、当センターへ足をお運びいただき、数多くの出土品をご覧ください。

(米田 大介)

